

SHIMANO KEIRYU ROD

渓流竿
取扱説明書

このたびは、シマノカーボンロッドをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。いかに軽く丈夫なロッドでも、乱暴な取り扱いでは、竿を傷めてしまいます。釣り人にとって、竿は大切な体の一部。この説明書をお読みの上へ、よくご愛用いただきますよう、お願い申し上げます。

SHIMANO

■修理部品に関するお願い

パーツを注文される際には必ず商品名と商品コードをお知らせください。

弊社では修理部品を商品コード番号によって分類しています。穂先交換など自分で修理される場合には、商品コード番号をお知らせください。商品コード番号は、保証書（保証書の付かない商品もあります）、本体元竿、パッケージのラベル等に記載されています。

商品コード番号を控えて、修理の際には必ず御提示ください。

●修理対応期間を過ぎた場合は修理をお断りすることがございます。修理対応期間につきましてはシマノカスタマーセンターHP（<https://www.shimanofishingservice.jp/>）をご覧ください

※商品コード番号は、数字の5ケタまたは6ケタになっています。（例）CODE No.12345またはCODE No.123456



株式会社 シマノ
〒590-8577 大阪府堺市堺区老松町3丁77番地

お問い合わせ
0120-861130（ハローイサオ）
[受付時間]AM9:00～12:00 PM1:00～5:00（土、日、祝日も除く）

<http://www.shimano.com>

新製品情報・釣り情報など、フィッシングライフに役立つ、シマノならではのデジタル情報を発信しています。また、カタログのお申し込みも受け付けています。

■アフターサービスに関する情報やパーツ互換性の検索、メンテナンス動画なども視聴いただけるHPアドレス：

<https://www.shimanofishingservice.jp/>



■安全上のご注意 ご使用前に必ずお読みください。

危険	
⚠	高圧線への接近による放電や感電、さらに落雷による感電は、最悪の場合重大事故（感電死）を招く恐れがあります。尚、水に濡れたグラスロッドも同様の危険がありますのでご注意ください。 気象条件により、空気に電気を帯びている場合があります。とりとりと電気を感ずるのはその為です。天候の激化等により危険を伴いますので、そうした場所での釣りはお断りください。落雷・感電による感電死を招く恐れがあります。
⚠	電線との接触による感電 高圧線・線路・鉄構等の電線による感電に注意してください。釣竿は素材特性上、電気をよく伝えます。特に電線等に接触、または、釣竿を近づけただけでも感電して死亡事故の原因となります。釣りを移動する時は必ず竿を握り、高圧線・線路・鉄構等の電線の下または近くでは絶対に使用しないでください。 電線による感電 落雷による感電に注意してください。使用中、雷が発生した時は、ただちに釣竿から離れ、安全な場所に避難してください。また、雷の発生がなくても、釣竿から電気を感ずるようなときも同様に、ただちに釣竿から離れ、安全な場所に避難してください。 釣り場以外の電線による感電 釣り場以外で釣竿を使用し、電線に触れる事故が発生しています。釣竿を使用する時は、周囲の安全に十分注意してください。
警告	
⚠	キャスティング（投げ）の時の注意 キャスティング（投げ）の時は、周囲に人がいないか、十分に安全を確認してください。釣針が人にささったり、ルアー・フック、オビなどが人に当たると非常に危険です。
注意	
⚠	周囲のゆるめ方 釣竿の固着（継ぎ目が食い込んで外れない時は）、継目の両側近くに、すべり止めを当てて握り、互いに逆方向へヒネリながら押して（歯出竿の場合）、継目を押さえてください。その際、力を入れたとき釣竿の継目に手荒れはあふ、けがをするおそれがあります。 ●竿の構造上、固着を完全に防止することはできません。固着をゆるめる時等、強く竿を握ると竿が壊れたり、破損し、手等に怪我をする場合がありますのでご注意ください。 ●固着をゆるめる時等、ガイド部分と繋がる部の抜き差しはしないでください。ガイドの変形や糸止部の破損の原因になり、手等に怪我をする場合がありますのでお気をください。 根掛かりの仕方 根掛かり（水中、陸上で、障害物に仕掛けが噛みはさる状態）した時は、無理に竿をあらわないでください。竿が折れたり、外れた仕掛けが飛んで、けがをするおそれがあります。根掛かりは、出来るだけ、糸を手にとって引っ張って糸を切ってください。その際、糸で手を切ることがありますので、手袋やタオルで手を保護してください。 破損時の取り扱い方 使用中、竿一箇所が破損（折れ、割れ、欠け、割損）した場合、破損した箇所を手でなでがをするおそれがあります。 子供の手の届く所に置かないでください 誤使用による事故や怪我に繋がる恐れがあります。 釣竿を釣り以外の目的に使用しないでください 事故や怪我につながる恐れがあります。 竿の一部や穂先等を無理に曲げると折れることがあります 折れた竿の一部が反動で顔や体に当たり、怪我をする恐れがありますのでご注意ください。 安全に釣りをし頂くために 万一、竿が破損してしまった場合、破損した竿の一部が反動で顔や体に当たり、怪我をする恐れがあります。釣りをする際には、安全のためサンングラス（傷つきガラス）、帽子の着用をお勧めします。

■釣行後のお手入れもお忘れなく

■竿の使用後、濡れたままで放置・保管しないでください。次に使う際、節が固着する恐れがあります。節を一本ずつ抜いて陰干して乾かしてから保管してください。

■竿の使用後は竿を仕舞った状態で尻栓を外し、先端から水を流し入れて砂やゴミを洗い流してください。次に穂先から順に抜き出し、ひと節ずつ洗ってください。砂が残っていると擦り傷がつく恐れがあります。特に合わせ部分から黒い水が出るような場合には、十二分に洗い流してください。

■竿を乾燥などのために立て掛けるときは、絶対に倒れないようにしてください。傷つき、ひび割れ防止のためくれくれもご注意ください。

■竿の合わせ部に市販のロッドクリーナーやワックスを塗ることは、絶対にしないでください。固着の原因になる恐れがあります。

■塗装面の保護のために、車での釣行時には、進行方向に対して竿が横向きになるようにしてください。進行方向と平行に横むと、加速、減速時に節々の表面がこすれて傷むことがあります。

■竿を濡れたまま収納しておいたり、高温多湿状態や密閉状態で置いておくと、塗装部に水ぶくれや気泡ができることがありますので、保管には十分ご注意ください。

タワシ・みがき粉・ベンジン及びシンナー等のご使用は絶対に避けてください。



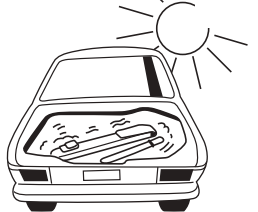
■竿の汚れは、柔らかい布等でやさしくふき取ってください。落ちにくい汚れは、真水又はぬるま湯で丁寧に洗った後、乾いた布でやさしくふき取ってください。また、砂粒等が付着している場合も、必ず洗い流してください。

■洗浄後は、風通しのよいところで陰干しをしてください。

■竿の表面を布等で強くこすると、塗装の種類によっては色落ちが発生する場合がございます。ただし、塗装のものが剥離したり、ロッドの機能に影響を及ぼす恐れはございませんので、あらかじめご了承ください。また、衣服等に色が付く場合がありますのでご注意ください。

車のトランクルームなどに長期間放置しないでください。

■高温・密閉状態での長期間放置は、竿の変形など大きなトラブルのもととなります。上記の要領で手入れしたあとは、風通しの良い場所にしまってください。



■渓流竿取り扱い上のご注意（使用時の破損には特にご注意ください）

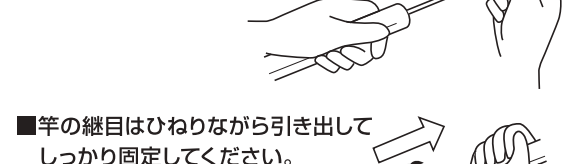
何もしないのに竿が折れた!? こんなご経験はありませんか？ 竿の破損には何かの原因があります。以下の取り扱い注意事項を良くお読みいただき、大切にお使いください。

竿を伸ばすときのご注意

■上栓をはずす時は、真上に引き抜くようにしてください。無理に引っ張ったり、こじたりすると玉口部分を傷つけることがあります。



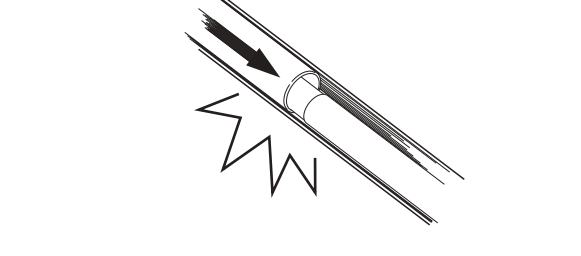
■竿を伸ばすときは穂先から順に引き出し、1節ずつ確実に固定しながら伸ばしてください。いきおいよく引き出すと固着する恐れがあります。特に竿が濡れている状態の時は注意してください。



■竿の継目はひねりながら引き出してしっかり固定してください。

竿は一点に力が加わると簡単に破損してしまいます。竿を伸ばしたり、仕舞った時に最もそう言うトラブルが発生しやすいので十分ご注意ください。

■竿の合わせがゆるむと、途中の継目から先の節が落ちてしまい、さらに残りの節を納めようとする、その竿尻が先に落下した細い節の玉口にぶつかって、互いに玉口割れ、竿尻割れ、竿内側割れ、これらによる竿折れを引き起こしてしまいます。



■落ちた節を無理に引き出すと、継目の内側と玉口が当たって、これも同様に玉口割れ、竿尻割れ、竿内側割れ、これらによる竿折れの原因となります。尻栓をはずして一本ずつ抜き取って、再度組み直すようにしてください。使用中は時々ゆるみを確認して、ゆるみを取ってください。



釣りをしているときのご注意

■釣りの最中はとくに穂先に糸がかからないように気を付けてください。また、継ぎ目のゆるみもときどき点検しましょう。

■竿を伸ばすとき、竿を仕舞うときは、竿尻をできるだけ川につけなくてください。水中の細かい砂を吸い込んで中竿の表面や合わせ部を傷つける恐れがあります。また、釣行後は、水道水などで竿をよく洗ってください。

■カーボンロッドは衝撃に非常に強い性質を持っています。車などに立て掛けた竿が風などで倒れたり、河原の石の上に乱暴に置いたり、竿同士が当たったりするとカーボン繊維に傷が入り、破損の原因となる場合がありますので、充分ご注意ください。また、河原の石の間に竿尻を差し込んで竿を立てたりすることも竿を傷つけるので、絶対にしないでください。

■強風にあおられて竿が大きく曲がり過ぎると破損する恐れがありますので注意してください。向かい風に逆らうと破損される恐れがあります。

グラスロッド穂先に関するご注意

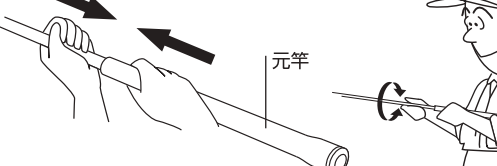
通常のカーボンでは表現できないやわらかさを持っており、エサを吸えた時の抵抗が非常に少ないのが特徴です。グラス素材採用のため新品状態から通常のカーボンより曲がり程度が大きく出ておりますが、弊社で厳重に検査の上、規格内商品として出荷しておりますのであらかじめご了承ください。

また局部的に曲げると多少の塑性残り（曲がり）が復元しにくい現象も発生します。強度低下や機能上の問題はございませんので安心してご使用ください。

穂先、#2、#3 玉口折れにご注意

■竿を仕舞うときは、手元から順次納めてください。

穂先、2番、3番など細い部分を納める時は、元竿を脇にさし込み、継ぎ節のすくすく下を持って、ひねりながらねじ込みように納めてください。



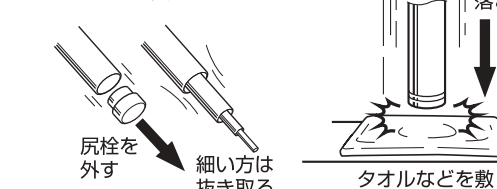
この時、仕舞う節の継ぎ節付近をそれより太い節の玉口内側に当たらないようご注意ください。玉口の端で細い節を傷める恐れがあります。仕舞う時に傷めると、次回釣行時に荷重がかかった際に破損する恐れがあります。

■竿尻を何かにあてて押し込む場合は、何らかの物の上に竿尻をあて、手元から順に一本ずつ納めてください。この時竿尻を水の中につけないようにしてください。

■仕舞寸法の長い竿を脇にささんで伸ばしたり、仕舞ったりするときは、通常の竿より脇を中心とした回転方向の力、かかりやすいので#2、#3の玉口を折らないようご注意ください。

竿が固着した場合

■尻栓を外し、固着したところより細い（穂先方向）部分を、まっすぐ引き取ります。元竿の中に仕舞い込んだロッドはそのままだと、板面等それより硬くない水平な面に垂直に立てて持ちます。元竿や仕舞い込んだロッドを誘導管にして、ストン、ストンと落とせば意外に簡単に外れます。このとき、タオルや段ボールなどを敷いておけば、より安心です。



■水気によって固着したときは、ドライヤーなどで乾かすと納めやすくなります。ドライヤーを竿に近づけすぎないようにしてください。

竿の固着は水が付着したときや魚の強い引きなどによって多少は起こることがあります。上記の方法ではすれぬ場合は無理にはずそうとせず、裏面のシマノサービスにご相談ください。

シマノのズームロッドには、2WAY ZOOM、3WAY ZOOM、7WAY ZOOMの3種類があります。お買い上げのズームロッドに対応した下記ご注意ください。

■ズーム操作時は、グリップ部とズーム部に段差があります。ここを握って急激にズームインすると、手を挟む場合がありますのでご注意ください。

●2WAY ZOOM についてのご注意

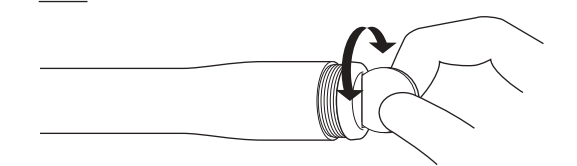
尻栓の取り外しについてのご注意

■尻栓には、レギュラータイプA,Bと元上尻栓付きタイプの3種類があります。



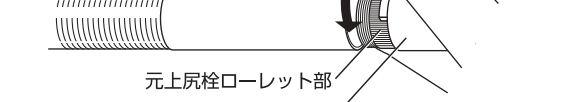
■レギュラータイプAの尻栓を外した後取り付けるときはしっかりと締めてください。締め方が緩いと尻栓が緩んで外れる場合があります。

■レギュラータイプB及び元上尻栓付きタイプの尻栓を外すときは尻栓の溝にコインを差し込んで回してください。取り付けるときは同じくコインでしっかりと締めてください。締め方が緩いと尻栓が緩んで外れる場合があります。



■元上尻栓を外すときは、図のようにローレット部の付属のゴムシートで掴んで回してください。また、外した元上尻栓を取り付けるときも同時にローレット部に付属のゴムシートを当てしっかりと締めてください。締め方が緩いとズームインの嵌合も緩くなります。

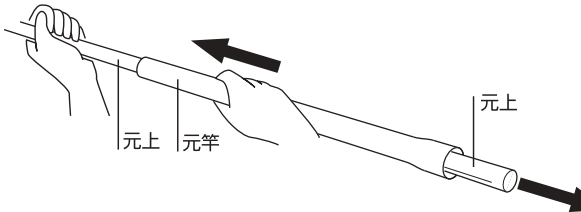
※付属のゴムシートは元上尻栓付きタイプのみに付属されています。



■元上尻栓付きタイプのズームインの回転トルク（回転方向の固定力）が緩くなったときは、尻栓が緩んでいる場合があります。そのときは取り付けるときと同じくコインでしっかりと締め直してください。締め方が緩いと尻栓が緩んで外れる場合があります。

竿は一本一本すべて抜くことができます

■前述の「尻栓の取り外しについてのご注意」の要領で尻栓を外し、元竿を強く押し上げると元上を元竿から抜くことができます。



●3WAY ZOOM についてのご注意

尻栓の取り外しについてのご注意

■ズームロッドは2ポイント特殊固定方式を採用していますので、竿を納めたときズーム部は尻栓に固定されています。竿を洗うときなど、尻栓をはずす場合はズーム部分を少し浮かしてから、回してください。

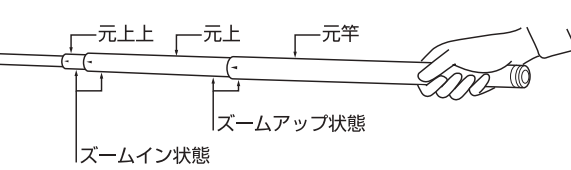
■尻栓には、凸起付き樹脂タイプとゴムタイプの2種類があります。凸起付き樹脂タイプの尻栓をはめる場合は、凹凸を合わせて差し込んでから回してください。

■ゴムタイプ尻栓を外した後、取り付けるときはしっかりと締めてください。締め方が緩いと尻栓が緩んで外れる場合があります。



釣りをしているときのご注意

■ズーム部は、先の方から伸ばしておいてください。下図のように元上上元上をズームイン状態、元上元竿をズームアップ状態にして使用します。ガタが発生しやすくなります。中子の節落ちの原因にもなりますので、この状態では使用しないでください。



竿は一本一本すべて抜くことができます

■前述の「尻栓の取り外しについてのご注意」の要領で尻栓を外し、ズーム部分（元竿、元上、元上上）以外の節を抜きます。

■握るズームタイプは元上を持って元竿を少し強く押し上げると元竿を外すことができます。さらに、元上上を持って元竿を少し強く押し上げると元上を外すことができます。

■握るズーム以外の3WAYズームタイプは平らな台の上にタオルなどを当て、竿を逆さにしてズーム部分をぐっと押し付けてください。竿尻から突出した部分を掴んで抜いてください。



●7WAY ZOOM についてのご注意

竿を仕舞う時のご注意

■竿を仕舞う際は元側から順番に一節ずつ仕舞うようにしてください。

■ズーム部が伸びた状態で中竿（あるいは上の節）を仕舞うと、次回延ばす際に玉口を痛めることがあります。



元側から順番に一節ずつ仕舞うようにしてください。



玉口部をつかんで最後まで押し込んでください。

■仮止め程度に強く止めると、構造上その節の後端部に遊び（ガタ）が発生するおそれがあります。

■各節共にZOOM UP操作を行う際は、伸ばす節と一つ下の節の玉口をつかんでZOOM UPすると一節ずつ伸ばすことが出来ます。



まわりリアンについてのご注意

■まわりリアンに仕掛けを取り付ける時は、出来るだけ回転部を指でつまむようにしてください。

■取り付け仕掛けは穂先と一直線になるようにまっすぐ引っ張ってください。穂先と直角方向に引っ張ると、まわりリアンが曲がったり、竿先が折れたりすることがありますのでご注意ください。

■水アカや不純物が付着したときは、回転不良の原因となりますので、水道水で洗い流してください。

その他のご注意

■竿は改造しないでください。穂先を詰めたりハカマをつけるなどの改造がされていると、修理時には保証期間内であっても有償となります。

■竿は一本一本、熟練職人が仕上げています。手作業のため色調や質感に若干の差が生じる場合がありますがご了承ください。

■ご使用になられた頻度、または外的要因により発生した不具合（塗装その他の表面処理の自然退色、腐蝕、剥離、擦り傷等）は保証期間内であっても有償となります。

■竿は全体に上手く力が加わって曲がる時は、強度を最大限に発揮しますが、一部分に集中的に力が加わったり、またその様な曲げ方をすると簡単に破損してしまいます。取り扱いには十分ご注意ください。

■一部穂先が取り外せない製品がございます。

■尻栓はネジ式のため緩むことがあります。脱着にご注意ください。